

特集 ユース★HOPE

4~6面 ユースが主役のローカルアクション
7面 ふくしまから考える新しいエネルギー

The Young Women's Christian Association
YWCA

12

DECEMBER 2017

No.741

www.ywca.or.jp

(第32総会期主題聖句)
平和を実現する人々は幸いである
一マタイによる福音書5章9節
(日本YWCAの使命(ミッション))
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む
(日本YWCAのビジョン)
地域で女性達が主体的に活動することを通して、
以下の社会をめざします。
(1) 平和憲法が生かされ、核も暴力もない社会
(2) 女性と子どもの尊厳を守る社会
(3) 若い女性がリーダーシップを発揮する社会
(4) 多世代・多文化で多様な背景を
持つ人びとを尊重する社会

そこで、マリアは言った。

「わたしの魂は主をあがめ、

わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。

身分の低い、この主のはしためにも
目を留めて下さったからです。

今から後、いつの世の人も

わたしを幸いな者と言うでしょう」

(ルカによる福音書1章46~48節)

YWCAの
マリアとエリサベト



恐れることはない
主が共におられる

「マリアの賛歌」と呼ばれる聖書の箇所です。
イエスの母マリアは当時、12~15歳、今でいう中学
生位であったと考えられています。当時、女性が
この年頃になると、婚約者と共に交流を始め、結
婚の状態にあると見なされます。律法にも規定さ
れていることでした。マリアにもヨセフという婚

約者がおりました。

パレスチナの北方ガリラヤ地方のナザレという
小さな町で、このマリアに起こったこと、それが
天使ガブリエルによる「受胎告知」。救い主イエ
ス・キリストの誕生を告げる知らせでした。その
当時マリアという名前のごくありふれた名前でした。
数多くいたマリアの中から、ヨセフの婚約者
のナザレに住むマリアが選ばれたのです。

郡司啓子

横浜共立学園中高YWCA顧問

エンパワーするNGO



クリスマス募金2017
災害・紛争下にある女性と子どもたちのために

平和、命、生活を脅かされている女性や子どもたちのために、
下記項目のクリスマス募金を呼びかけます。皆様のご協力を心
よりお願い申し上げます。

オリーブの木キャンペーン募金

寄付項目

紛争が続くパレスチナの地に、平和の象徴であり、パレスチナの人々の生活の源であるオリーブの木を贈ります。1口3,000円で1本の若木です。プレートに寄付者の名前が刻まれ、パレスチナから証明書が送付されるので、通信欄に寄付者のお名前をローマ字表記で必ずご記入ください。

東日本大震災被災者支援募金

被災地に暮らす子どもたちのために各地域のYWCAが企画するリフレッシュプログラムや、家族で滞在できるセカンドハウス事業、福島への支援拠点「カー口ふくしま」を中心とした活動等、被災者の方々の心と体のケアのために使われます。自由に屋外で遊べない子どもたちが安心してリフレッシュできるように、冬休み、春休みを前にさらなるご協力を。

ピースメーカーズ募金

「平和を実現する人々は幸いである」をテーマに、YWCAでは女性一人ひとりがピースメーカーとなり平和を実現するための活動を展開。平和の実現のための活動と未来のピースメーカーのためのリーダーシップ養成に用います。

郵便振替 00170-7-23723
加入者名 公益財団法人 日本YWCA

通信欄に「クリスマス募金(オリーブの木)」「クリスマス募金(被災者支援)」「クリスマス募金(ピースメーカーズ)」のいずれかをお書きください

お振込み先

若者の生きづらさについて考える「日韓ユースカンファレンス」を実施したい!

日本と韓国のユースが寝食を共にしながら両国の共通の課題の解決をめざす国際交流プログラムを開催します。テーマは「私たちの生きづらさを考える」。来年2月の開催に向けてクラウドファンディング(インターネット上での寄付)を募っています。皆さまのご協力をお願いいたします。

クラウドファンディングサイト Campfire >>> https://camp-fire.jp/projects/view/44119#menu

※日本YWCA facebookからもアクセスできます 締切12月22日(金)

お詫びと訂正

10月号1面に掲載した写真のクレジット「名古屋YWCA」は誤りで、正しくは「福岡YWCA」でした。関係者の皆さまにお詫びして訂正いたします。

ご協力ありがとうございます
賛助費
渡辺園子 須藤和子 石井摩耶子
田中倍子 山本敦子 江尻美穂子
阿部万子 後藤安子 宇都宮芳子
芳川雅美 浅原千代 阿部喜久子
松下優子 杉本康雄 谷川いつみ
高橋須賀子 森川恵美子
ピースメーカーズ募金(平和を創り出す女性のリーダーシップ養成)
渡辺園子 寺沢京子 鈴木雅代
有木昭久 有木信子 山下祐子
高屋陽子 吉濱龍一 高島陽子
馬庭可南 石川瑛子 沖島幸子

矢野峻行 遠藤和子 加藤啓子
名倉裕子 本多峰子 田島昌子
滝 博邦 肥田和子 横井礼子
大島 力 大島一枝 日比谷豊
川崎慧子 今野寿子 丸山 昇
吉田純子 芝生博香 石井摩耶子
前田みち 宮島陽子 阿部喜久子
秋山征子 滝藤恵美 谷川いつみ
神保和子 田中ますみ 高橋由香子
青戸雄司 馬場元毅 藤田未穂子
吉川幸子 秋山恵子 肥田より子
足立暁子 奥山美喜 尾澤うめ子
坂本純子 笛木直子 初川江美子
日本バプテスマ東京第一教会
日本基督教団阿佐ヶ谷教会
日本聖公会東京聖三一教会

日本聖公会浅草聖ヨハネ教会
日本バプテスマ同盟豊ヶ丘教会
東洋英和女学院大学
東京女子大学
との森三愛高等学校生徒教職員一同
匿名
災害時支援募金
(国内外の災害被災者支援)
須藤和子 阿部喜久子 森川恵美子
第44回宮城学院高校コース会
(オリーブの木キャンペーン募金)
浅原千代 阿部喜久子
(南アジア洪水被災者支援募金)

匿名
東日本大震災被災者支援募金
杉原壽子 杉本康雄 石井摩耶子
笛木直子 阿部喜久子 藤谷佐斗子
こひつじ保育園
一般財団法人 YWCA
世界YWCA総会派遣募金
吉田亜希 山口慧子 藤谷佐斗子
(2017年8月16日~10月15日現在 敬称略)

天使は、彼女のところに来て言った。
「おめでとう、恵まれた方。
主があなたと共におられる。」
マリアはこの言葉に戸惑い、
いったいこの挨拶は何のことかと考え込んだ。
すると、天使は言った。
「マリア、恐れることはない。
あなたは神から恵みをいただいた。
あなた自身もって男の子を産むが、
その子をイエスと名付けなさい。」
(ルカによる福音書1章28〜31節)

天使は、神が彼女をお選びになった理由を言いました。神の選びはいつでも「恵み」であるのです。しかし本当に恵まれたと言えるでしょうか。当時の律法規定では、婚約者以外の子を身ごもることは姦通とされ、石打の刑で殺されることもあったのです。誰もが顔見知りの小さな町でのこの出来事は、彼女

を家族、親戚、友人達のコミュニティからの訣別もろろのこと、いのちの危険を伴う窮地に追いやることにさえなりかねない出来事です。マリアの姿は、今の中学生とそう変わらない表情であったであろうと思うとき、クリスマスを前に読まれるのみ言葉にどうしても心が締め付けられざるを得ません。
彼女は身に起こることを、理解し納得したわけではありませんでした。ひたすら受け入れたのです。なぜならマリアは、神のご計画によって救い主が与えられるという約束を、切実に待ち望んでいる民の一人であったからです。

マリアは「わたしは主のはしためです。お言葉通り、この身に成りますように。」と言って受け入れます。マリアは「はしため」という言葉を使います。メイドを表す言葉ですが日本語では「端女」と記されることもあるようです。端っこの方で役割を担い、全体を動かすような重要な役割を任されることのない女性です。自ら「はしため」と呼ぶことも、ガリヤという辺境

の地が選ばれたことも決して偶然ではないでしょう。
「神があなたと共におられる」

このクリスマスのメッセージに最初に与り、喜びに満たされた人こそ、このマリアだったのです。「はしため」という言葉は単に自己を卑下している言葉ではないと思うのです。彼女は知ったのです。この隅っこにいる私を神様は用いてくださったのだ、と。旧約聖書の預言者達が言っていたように、隅っこが今や中心となる。

それは世界が大きく逆転する出来事です。マリアはすべてをゆだねる決断をするのです。

**この世の現実にあ協しない
まっすぐなまなざし**

かつて、教えている中学生から、地球の中心はどこかと質問を受けました。突然のことでしたので、瞬間に「あなたがいるところ」と答えました。後で同僚の数学教師に話したところ、あながち間違いでないことが分かりました。マリアは今、中心の位置が変わったと実感したのではないのでしょうか。神がいまるところ、そこが中心なのです。「神の中心」とは、「人間の中心」が逆転することでした。彼女はそこに、この世の恵みとは次元の違う神の正義を見たのです。そして、解き放たれるように、み言葉の中へと飛び込む自由を選ぶことができたのです。

中学生に接している私にとって、この神の正義を信じ応答するマリアの、潔癖なまでの一途なその姿は、中学生のものだと思ふことが何度もありました。

大人は自らの経験と常識をもって自分の力に頼り、努力と成功を勝ち取ることを子どもたちに教え込もうとします。「自分の力を信じて頑張れ」とせき立てる姿がそこにあります。「マリア、恐れることはない。主があなたと共にいます」とは教えないのです。それが



YWCAの
マリアとエリサベト

どんなに恐ろしいことか。主と共におられ愛しておられることを知らずに、隣人と共に生きることはできないのです。そこでは自己実現できる社会を望み、すべて自分の利益、損得の感情が支配するところへと導いていこうとするのです。

しかし、彼らはそのような欺瞞を見抜き、ときに筋を通す正義を求めてくるのです。心を頑なにさせ、融通がきかず、大人に心を閉ざすことさえあります。そうして真実を見抜く力を得る訓練をするのです。

教師として生徒の前に立つて授業をするとき、中学生にはごまかしや言い訳が通用しません。妥協がないからです。自分に対しても、他者に対しても、完全や万能を求めて完璧であろうとするのです。

「マリアの賛歌」に現された、神の正義が実現することの喜び、その憐みへの感謝と祈りは、この世の現実にあ協ないまっすぐなまなざしを、読む者に呼び覚まします。

神はマリアを選びました。無から有を生み出す創造主である神が、彼女の中に救い主を誕生させる歴史を始めたのです。

**キリストに仕えて生きる
先輩方の姿に倣う**

私が務める横浜共立学園のYWCAは、数年前に100周年を迎えました。キリスト教教育の大切な担い手です。今から14年前、私が着任したとき会員がゼロとなっていました。1人、2人と会員が与えられて、それもまた小さな歩みであります。

私自身は今から31年前、函館の遺愛女子中学校高等学校でYWCA顧問としてスタートし、それ以来たくさんの方との出会いとYWCA顧問としての学びを与えられ、エンパワーされて参りました。その都

度、この「マリアの賛歌」が心を離れなくなりました。それはYWCAの会員である生徒の姿が、救い主イエスの受胎を告知されたマリアの「マグニファイカー（賛歌）」をうたいあげる姿と重なるように思えるからです。

天使に告げられてから、彼女はエリサベトの元を訪ねます。エリサベトはマリアの遠戚で、不妊であり、年齢的にも子どもは出来ない身でした。しかし、神のご計画は、エリサベトに子を与え、この子に救い主の訪れを告げる役割を与えたのです。マリアはエリサベトのいるユダの山里に、おそらく1人で向ったのです。出会いを求めて突き進む姿に、多くの部活動がある中でYWCAを選び、キリスト教を基盤とする活動に何かを求めて分け入ってくるその姿が重なるのです。生徒はYWCAの活動を通して、自分の成長だけに目を留めて生きさせようとする大人からは決して知らされない、世界の不都合な現実を知らされません。

少しでもそれを変えようと、解決に向けて自分ができることがあるかと、仲間と話し合いを続けます。現実の厳しさを知れば知るほど、自分の無力さ、至らなさ、限界を何度も知らされます。人の力による破壊と危うさを知らされ、恐怖を感じることもさへあります。けれども、どうして生徒たちは逃げずにYWCAで活動し続けてきたのでしょうか。

それは、歴代の中高YWCAの先輩方が示してくださった妥協のない後ろ姿を見てきたからではないでしょうか。小さな働きでも、そのときに世界が逆転する

ようなことを起こせなくても、それを信じて突き進む姿にキリストの平和の証人として、小さな働きを愚直なまでに、この世の倣いによれば誠にも不器用にも（失礼ながら）、けれども決して絶望しない姿に引き付けられてきたのではないのでしょうか。


**痛みがエネルギーとなり
YWCAを支える力に**

エリサベトは、救いのご計画の始まりを告げられて、マリアの前を歩き出していました。マリアはエリサベトの後を慕って行くのです。この関係に、YWCAの先輩方と生徒たちの姿を見る思いがします。神への信仰によってマリアを受け入れたエリサベトの働きを、ますますYWCAの先輩方、全国のYWCAの皆様にお願ひしたいのです。中高YWCAにおいては、YWCAが求めるリーダーシップを持つ生徒ばかりではありません。多くの学校で見られるように、他の部活動と兼ねていたり、友人との人間関係に破れ、疲れて入会する生徒もいます。さまざまな事情を抱え、自分ではどうすることもできない状況の中から逃れるようにしてYWCAに身を寄せる生徒もいます。そして、学校の片隅で小さくなっていた生徒達は、学校以外の世界の問題や課題、地域の人々の苦悩を知ります。交流を通して自分を振り返り、仲間を見出し、必要とされている自分の存在と課題とに向き合いながら成長していきます。自分に強いられるストレスをもエネルギーに変えてYWCAを支える力となっていくのです。

中高生のYWCA活動は、さらに世界の片隅の小さな出来事にすぎません。けれども、その痛みの一つひとつが、いずれの日にか、神の力によって平和の実現のため用いられると信じて歩みたいと存じます。

from
ユース

"By Youth, For Youth"

 東京YWCA会員
藤原聖帆

「つながる」その大切さを改めて感じると共に、パワーをもらえた場でした。それは自由に意見を出し合った際に、セーフスペースのような時間をもてたことにあるようです。共通の社会問題への意識や、少しでも良くしたいという思いを共有でき、YWCAで活動するユースらしさを感じましたし、私のモチベーションにもなりました。"By Youth, For Youth"がこれからのYWCAには大切なことの一つであること、同時に、全国から集まったミドル、シニアの方々と共に地域とのつながりや運動を強めていきたいと感じました。



Local Action 2017 ユースが主役のローカルアクション 2017

今総会期からスタートした、地域YWCAを主体とした活動「LA (ローカルアクション)」。

今年度実施されたプログラムの中でも、ユースが主役の3つをレポートします。

10/7→10/8 @大阪 「全国ユースギャザリング」

このプログラムは、全国のYWCAに関わるユース(18歳~30歳の男女)が出会い、各自の関心分野や共通の課題について語り合い、人間関係やリーダーシップ、日本を含めた世界について学び合うもの。ユース同士の顔の見える関係づくりと、今後に向けた活動のアイデア作りをめざして1泊2日で開催された。

全国から集まったのは18名。初日は、臨床心理士を講師に招き、「デートDVとコンセンサスビルディング」をテーマに体験型のワークショップに参加。「テーマに沿った話し合い」のセッションでは、「YWCAでよかったこと」や「活動アピール」など、参加者が自由に発言した。夜は「わくわくすること、やってみ

いこと、好きなこと」についてざくばらんに意見を出し合い、2日目に「YWCAで今後やってみたいこと」としてまとめた。CSW(国連女性の地位委員会)に向けた勉強会、保養キャンプの説明会、ユースのための修学旅行、中高YWCAとの連携など、若い感性を活かした豊かなアイデアが挙がった。それぞれのセッションは、参加者が自由に発言し、聴き合うセーフスペースとなった。

プログラムはユースが中心となって企画・運営されたが、食事作りやホームステイ受け入れなどを通して、ユースの主体性を温かく見守るシニア・ミドルの後方支援があってこそ実現した、学びと繋がり場となった。

from
シニア

お知らせ

「YWCAフェスタin京都」2018年5月に開催します

ユースからシニアまで、全国の会員・職員が出会う場です。YWCAの仲間として語りあい、学びあい、共に未来を描きましょう!今からご予約ください。宿泊のご予約はお早めに。

テーマ:みんなでつくりだすYWCAの未来

- 日程** 2018年5月19日(土)13時~20日(日)17時
※19日9時~12時は加盟YWCA中央委員会を開催
※21日(月)にオプションツアーあり
- 会場** 御所西 京都平安ホテル 京都YWCAほか
- 定員** 先着150名(中央委員会参加者を含む)内、ユース20名予定
- 参加費** 31歳以上 1万5000円
30歳以下 5000円
※宿泊費・交通費は含みません。
30歳以下宿泊費・交通費は日本YWCAが負担
- 申し込み** 各地域YWCAにお問い合わせを
- 締切** 2018年1月15日(月)先着順


来年は熊本で会いましょう

 熊本YWCAユース会員
津志田純一

全国のユースとの交流を通して多くの刺激を受けました。それぞれの地域での活動、個人でやってきたこと、考えていること、ユースならではの悩みなど、和気あいあいとした雰囲気ですぐ話すことができました。他地域のユースと交流したのは初めてで最初は緊張していましたが、いざ始めると、いつの間にか気持ちがほぐれ、楽しい二日間となりました。次回は参加できなかったユースとも交流ができればいいと思います。来年は熊本開催なのでぜひ来てください(^^)




考えをシェアできる機会を

 福島YWCA会員
高玉陽菜

全国のYWCAで活動しているユースと出会えたことが一番嬉しかったです。1日目の臨床心理士によるデートDV講座のインバラ法は、物の気持ちを考える、物として相談するなんて考えもしないことでもおもしろかったです。いつもシニアの皆さんと話し合いプログラムを行う私からすると、近くにユースがいて一緒に何かを考えるのは、楽しい時間でした。ユースならではの考えをシェアできる時間や機会がたくさんあればいいなと思いました。

自由に意見を出せる集まり

 神戸YWCA会員
福田百

強く感じたのは、YWCAは話しが得意な人の集まりなんだなということ。どんなことがしたい?どんな社会をめざしたい?という問いに、自由に意見を出していました。こんなふうには話せるのは、どんな意見も受け止めて「いいね!」とってくれるYWCAの温かさ。そして、活動を通して身につけたチカラなのでしょう。私は、言葉にすることが苦手なので悔しかったです。今後の活動では緊張しながらも、もっと議論していきたいです。



いつでもお泊まりください

 大阪YWCA会長
佐藤恵津子

東京からの参加者に開催日の前後2泊、私の家に泊まらせていただきました。最終日の夜、少しだけのつもりで話を始めたら熱中して、気づいたら夜中の1時半になっていました。話題はもっぱらYWCAのこと。他の地域に住む会員の家に宿泊するのは、その暮らしや考えに触れる機会になります。気を遣うこともあるかもしれませんが、シニアの私は、頼もしい若い世代にお会いできるのはとても嬉しいことです。もしよければこれからも大阪でのプログラムに参加の際は泊まりください。

若者たち、やってみなはれ!

 大阪YWCA会員
西村由紀子

食事作りのお手伝いをしました。当日は皆さんに直接お会いできなかったのですが、この場を借りてひとこと。私が、まだ20代の頃。車椅子の男性が、「障がい者だけを大切にしてほしいのではありません。私たちのような弱い立場の人が生きやすい社会をつくるのが、誰もが生きやすい社会を創ることなのです」と話してくれました。強者に「付随する」のではなく、弱者や少数派に「付随する」人が必要です。誰もが生きやすい社会をめざして闘ってほしい。あなたたちを「意識高い系?」と揶揄する人もいるでしょう。でも、YWCAには、あなたたちを理解し、応援し、協働してくれる先輩がいる。「宝物のような若者たち、やってみなはれ!」

ふくしまから考える新しいエネルギー

Part 3

高校生の熱意で「エネフェス！」を実現

東日本大震災被災者支援事業として、福島の高校生を対象に毎年実施している「ふくしまから考える新しいエネルギー」。9月2日、高校生たちの念願であった「エネフェス」を開催し、積み重ねた経験と知識を楽しく紹介した。

「僕たちを助けてください」

この言葉は、2015年の「ふくしまから考える新しいエネルギー」成果報告発表会で、登壇者を代表した高校生からのメッセージです。

今年で3回目となった、高校生を対象とした再生可能エネルギー（以下再エネ）を学ぶワークショップ「ふくしまから考える新しいエネルギー」は、毎年福島県教育庁より「子どもがふみだす ふくしま復興応援体験事業」の補助金を得て開催しています。リソースパーソンを招いての座学や、ときには現地に出向き実際に見て触れて聞いて、再エネの現状と可能性を肌で知るプログラムです。

その過程で、自分たちが積み重ねた経験と知識を、再エネ普及のため大勢の人に楽しく触れながら知ってほしい、という願いが徐々に高まりました。「エネフェス（再生可能エネルギーフェスティバル）を開催したい、大人の力で助けてほしい」という気持ちが冒頭の言葉に繋がったのです。



みんなで企画を出しあって開催内容を決めた

com7300委員会では、この真摯な思いを受けとめ、3年目の2017年は、念願のエネフェスを開催しようと目標を立てました。

工夫をこらしてアピール

生活協同組合コープふくしまのご厚意により会場を提供していただくことができました。買物に訪れる家族連れを想定し、楽しく体験できるイベントで再エネへの興味をもってほしい、というエネフェスのイメージが出来上がり、そこから具体的な内容を考えました。

段ボールとアルミホイルという身近な材料で本格的なものができる手作りソーラークッカーの教室は、自分たちの驚きをみんなにも体験してほしいという思いからの企画です。

火力・水力など5つの自然エネルギーのどれが一番良いか投票してもらった「再エネ総選挙」では、高校生5人

がそれぞれ「押し=推薦」のエネルギーをアピールし、これからの福島にとって最も向いていると思うエネルギーに投票してもらいました。エネルギーの特徴をまとめ自分の言葉でアピールしたり、大声で投票の呼び込みをしたり、高校生ならではの工夫を凝らした企画となりました。同時に全国のYWCAからもたくさんの方が駆け付けて、心強く思いました。



来場者が「福島に向いている」と思うエネルギーにシールを貼って投票する「再エネ総選挙」

支えあって準備をした

参加者たちは短い準備期間で、アイデアを出し、互いをサポートしながら準備を進めました。遠方の高校生は前日の最終準備には、片道2時間半をかけて学校から駆けつけました。当日はあいにくの曇り空でしたが「結果より過程です」と広い会場のあちこちでパワフルに活躍し、その頼もしい姿を見ただけで厚い雲も吹き飛ばすようでした。

現在の高校生たちは震災当時小学生。日々さまざまな情報に触れ、大人たちの様子を見ながら、彼らなりに生活エネルギーへの関心を持ったのでしょうか。将来、再エネ研究の道へ進みたいと考えている高校生も少なくありません。このエネフェスが未来へのきっかけとなれば、こんなに嬉しいことはありません。

com7300委員会



一緒に創り上げた仲間の存在もエネルギーに

Local Action 2017

ユースが主役のローカルアクション 2017

今総会期からスタートした、地域YWCAを主体とした活動「LA（ローカルアクション）」。

8/27 横浜YWCA 福岡YWCA 熊本YWCA Girls Rock Day Camp @横浜



「ガールズ・ロック・デイ・キャンプ」は、女性がバンドを結成してライブ演奏を行うことで互いを支え合い、「自分ではできた」という体験を通して自尊心を高め、自分の芯に強さを持つことをめざしました。

今回のプログラムは、YWCAだけではなく、Girls Rock Tokyoという非営利団体とタッグを組んで行いました。

15歳～19歳の少女を対象に募集して3名が参加。横浜・熊本・福岡YWCAの若いメンバーと共にボーカル・ギター・ベース・ドラムの4人構成で3バンドを結成しました。出身も年齢も違う初対面のメンバーです。不安だらけで始まりましたが、すぐに打ち解けることができました。易しいコード進行なので短時間で覚えて本番を迎え、楽しく演奏できました。



Girls Rock Day Camp 撮影 石渡 朋

音楽を通じて自分を知るだけでなく、他団体との交流や、他の地域のヤングメンバーと一緒に活動できたことなど、とても爽やかな多いプログラムでした。

来年は熊本で開催する予定です。ヤングメンバーの参加をお待ちしています。一緒に歌って、弾いて、盛り上がりましょう。

福岡YWCA会員 樋口春菜

10/1 東京YWCA 横浜YWCA @東京

第1回 ユースのための憲法カフェ

ユースが関心を持つテーマを通して、自分自身の生活と憲法が繋がっているということを知り、考えるためのきっかけ作りとして企画しました。全5回を予定しています。

インターネットやチラシで呼びかけたところ、高校生、大学生、社会人と立場が異なる11人が集まりました。

初回のテーマは「仕事」。「自分らしく働きたい」と題し、弁護士の島昭宏さんを迎えて講演を行いました。「憲法はロックだ」と語る島さんは、長年ロックバンドを率いてきたアーティストでもあります。

40歳を迎えてから弁護士となった自らの経験を交えつつ憲法に触れ、その中でも特に個人の尊重と幸福追求権を謳う13条の大切さを語りました。

講演後のグループディスカッションでは、実行委員会のユースメンバーがファシリテーターを務め、参加者同士で仕事への思い、自分らしく働くことの意味など活発な議論を展開しました。「給与が低いと奨学金の返金が大変だけど、仕事はやりがいで選びたい」という意見もありました。

最後に島さんから「仕事の選択



肢を自ら狭めないでほしい。未来は可能性に満ちている」と励まされて閉会となりました。帰らずに交流する若者たちの姿が印象的でした。

ユースのための憲法カフェ実行委員会委員長 清水智子